血液像所見が迅速な追加検査の提案に有用であった CML 急性転化期の一症例

◎佐藤 聖子[1)]、安藤 紗緒里[1)]、大澤 道子[1)]、星 雅人[1)]
藤田医科大学病院[1)]

【背景】フィラデルフィア（Ph）染色体の存在によって特徴付けられる慢性骨髄性白血病（CML）は、Ph 染色体上の *BCR::ABL1* 融合遺伝子から産生される BCR-ABL1 チロシンキナーゼの恒常的な活性化によって各成熟段階の血液細胞が腫瘍性増殖をきたす疾患である。CML 患者の多くが慢性期（CP）で発見されるが、急性転化期（BP）で診断される症例もしばしば存在する。今回、血液像所見が B-LBL with *BCR::ABL1* fusion との鑑別に有用であった CML-BP の一症例について報告する。

【症例】50 歳代男性。健康診断で白血球増多、貧血、血小板減少を認め当院血液内科へ紹介受診。これまでの健康診断では高血圧以外に異常は指摘されていなかった。

【検査所見】PLT 78×10^9/L、Hb 6.7g/dL、WBC 34.8×10^9/L、LD 833 U/L、血液像で幼若顆粒球の出現、好塩基球および芽球の増加、好中球の脱顆粒と偽ペルゲル核異常を認めた。骨髄検査では dry tap のため吸引できず、末梢血で追加検査を実施。FCM では HLA-DR,CD19,CD34,CD22,CD25,cyCD79a 陽性、CD13,CD10,CD7 弱陽性、CD20,CD33,CD117,CD66c,cyCD3,MPO 陰性。血液像および FCM 結果より Ph 陽性 ALL または CML-BP（lymphoid crisis）の可能性を疑い、末梢血好中球 *BCR-ABL*（FISH）の追加検査を提案した。

【外部委託検査所見】WBC キメラマルチスクリーニングで major *BCR-ABL1* mRNA、minor *BCR-ABL1* mRNA を認め、染色体検査（G-band）では t(9;22)(q34.1;q11.2)に加え、add(17)(p11.2), －20 を伴う異常を認めた。末梢血好中球 FISH で融合シグナルを 98.0%認めたことから、CML-BP と同様の分子背景をもつ ALL であることが判明した。

【考察】明らかな CP を経過しない初診時 BP（lymphoid crisis）と Ph 陽性 ALL との鑑別には、末梢血好中球 *BCR-ABL*（FISH）が有用である。形態学的には両者の鑑別は困難であるが、本症例では遺伝子検査や G-band の結果が出る前に、血液像所見（好塩基球の増加や好中球の異形成）から CML-BP を疑い、早期に末梢血好中球 FISH の提案ができた症例であった。

連絡先 0562-93-2307